2015/2016 シーズン　2016 年 1 月 21 日

横浜市インフルエンザ流行情報　2 号

横浜市健康福祉局健康安全課　／　横浜市衛生研究所

《トピックス》

インフルエンザの報告が増加しています。

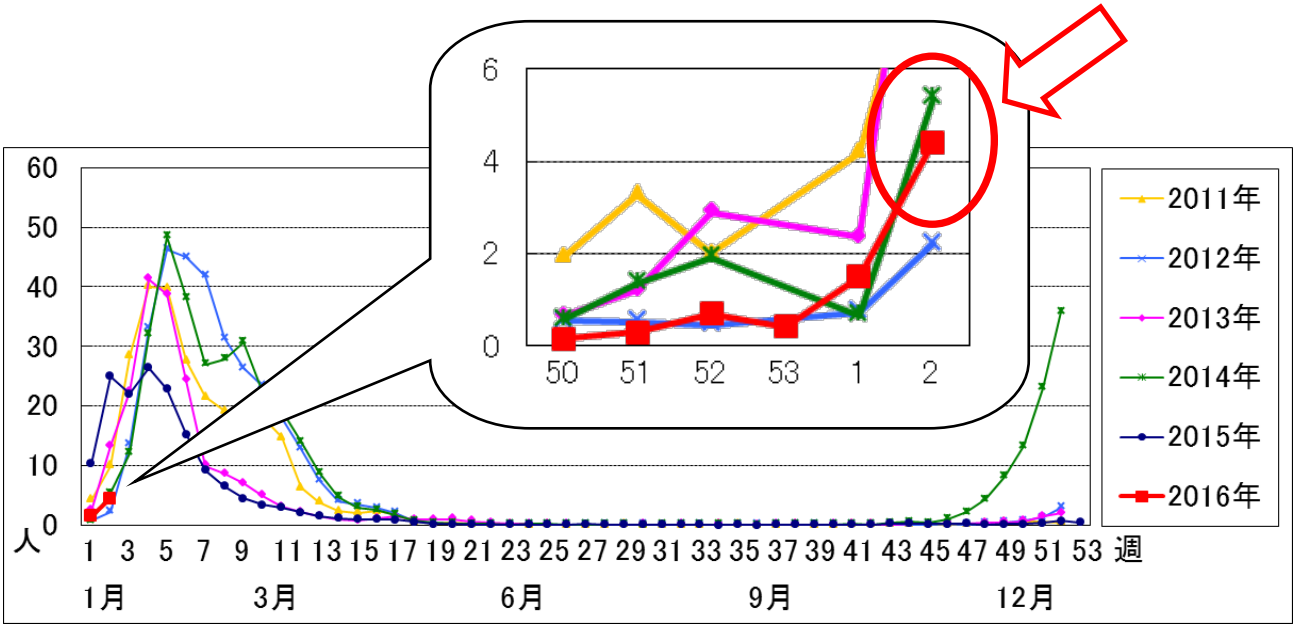
【概況】

2016 年第 2 週(1 月 11～17 日)の定点※1 あたりの患者報告数は、横浜市全体で 4.42 と、前週よりさらに増加しており、報告された患者の半数以上は 10 歳未満です。

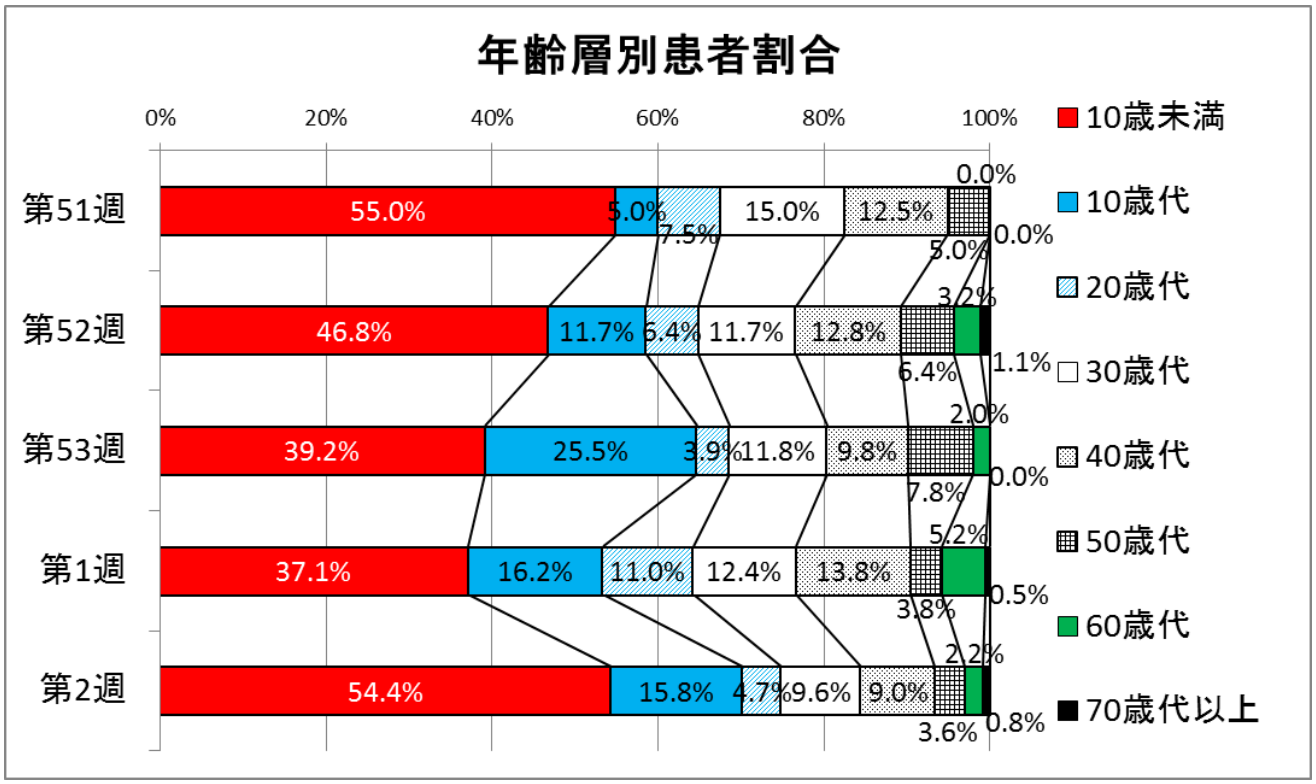
第 2 週の迅速診断キットの結果では A 型 76.9%、B 型 21.9%、AB ともに検出 1.2%と、流行シーズン初めながら B 型が多く検出されています。衛生研究所で検査した市内のウイルス検出状況は AH1pdm09 77.3%(22 件中 17 件)が最も多くなっており、ワクチン株との抗原性解析では、解析した AH1pdm09 株はすべて HI 価 2 倍以内(ワクチン株と類似)でした。今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、予防や早期受診などの対策※2 が重要です。

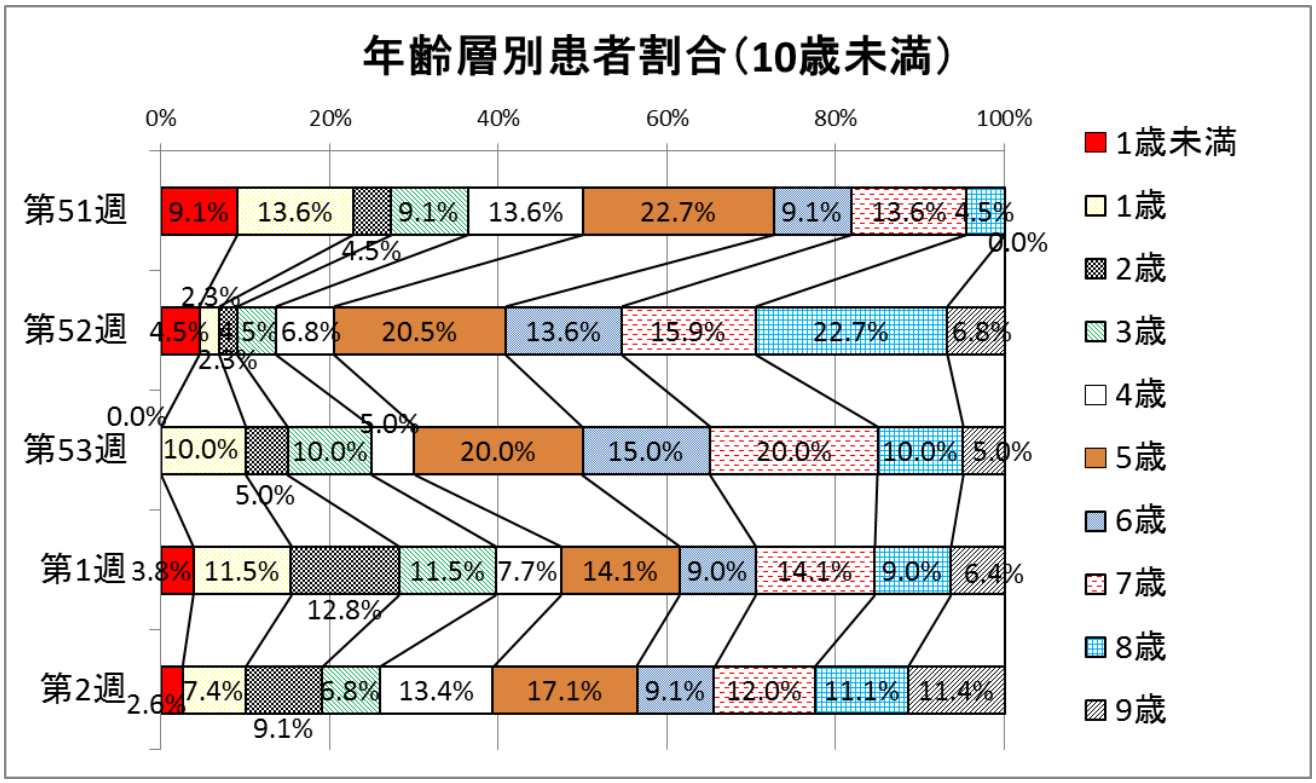
※1 定点・・定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内 153 か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。
※2 インフルエンザ予防チラシ(横浜市)

1　市内流行状況:市全体の定点あたりの患者報告数は、2016 年第 2 週 4.42 と、流行開始の目安となる 1.00 を上回った前週よりさらに増加しました。



2　年齢層別患者報告数：直近 5 週間の患者年齢構成では、10 歳未満が第 1 週にかけて減少していたものの、第 2 週では再び増加し、全体も半分以上を占めています。10 歳未満では、5 歳（17.1%）が最も多く、次に 4 歳（13.4%）、7 歳（12.0%）となっています。



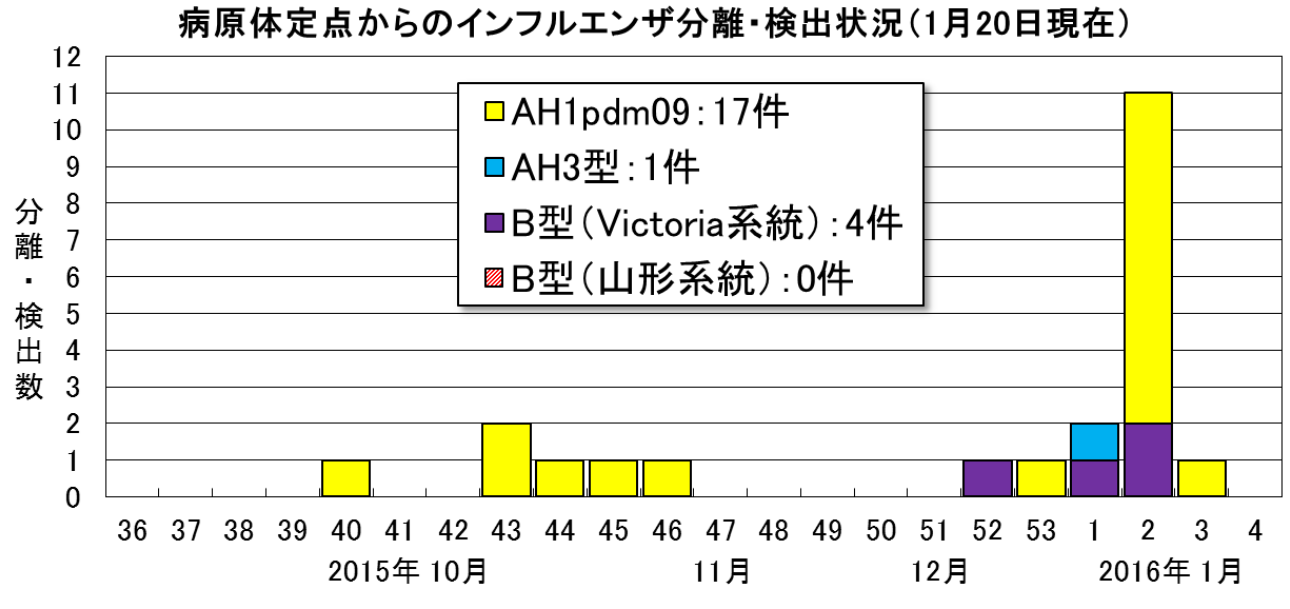


3　学級閉鎖施設数：市内の学級閉鎖は第 1 週、第 2 週とも報告はありませんでした。

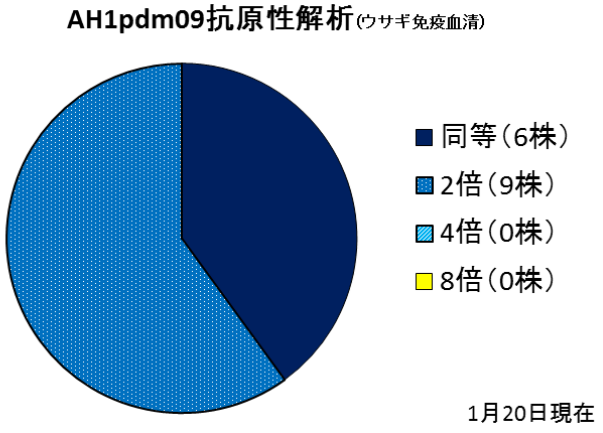
4　入院サーベイランス：市内基幹定点医療機関[※3]におけるインフルエンザ入院患者は、2015 年第 53 週 2 件（どちらも 10 歳未満）、2016 年第 1 週 1 件（80 歳以上）、第 2 週 3 件（60 歳代 1 件、70 歳代 2 件）でした。

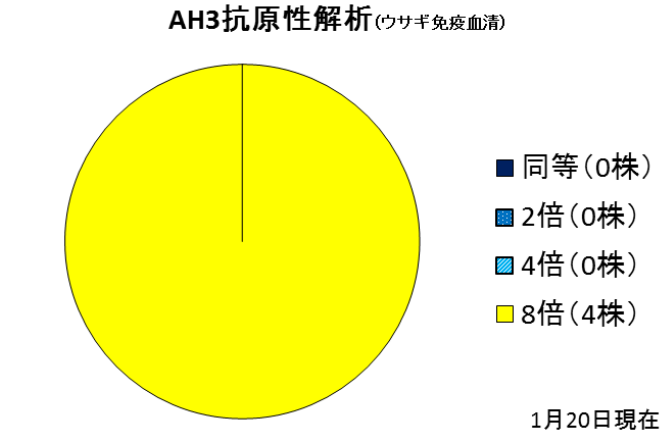
※3　基幹定点：患者を 300 人以上収容する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には 4 つの基幹定点があります。

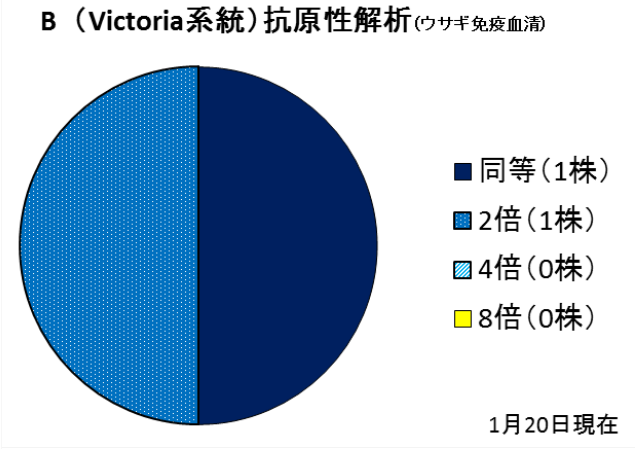
5 市内病原体検出状況：市内では病原体定点からAH1pdm09が最も多く分離・検出されています。また、迅速診断キットの結果では、シーズン初期にもかかわらずB型が21.9%を占めていますが、ウイルス分離・検出でもB型（Victoria系統）が4件検出されています。



6 分離株の抗原性解析：市内で検出されたAH1pdm09株とB型（Victoria系統）株では、ワクチン株との抗原性解析（HI 試験）は、**すべてHI価2倍以内**でした。AH3株はすべて**HI価8倍**でした。一般的に4倍以内でワクチン株と類似していると言われています。ただ、今回の解析にはウサギの血清を使っており、参考値です。正確な結果は国立感染症研究所での分析を待つ必要があります。

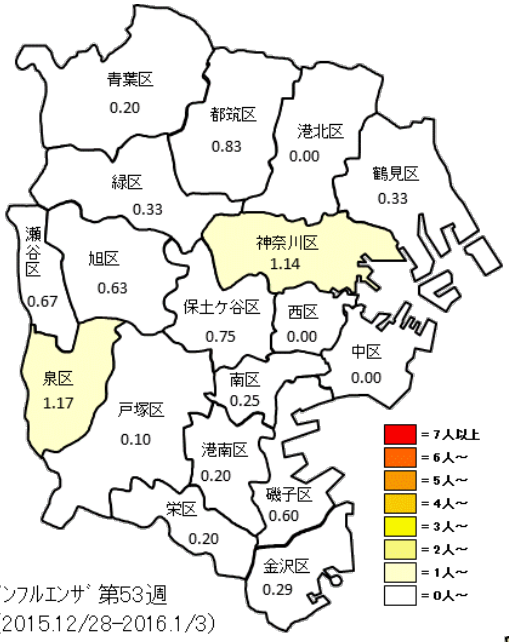




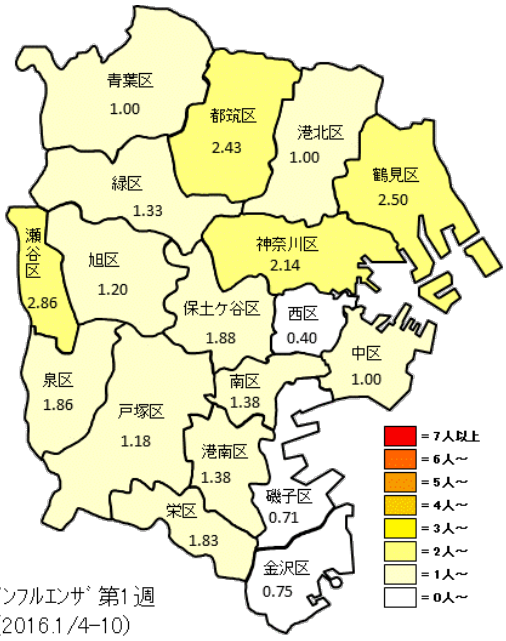


なお、国立感染症研究所からも、横浜市で分離されたAH3型のうち、2株の抗原性解析結果が報告され、**16倍以上の中和反応性低下（ワクチン株から変異している）**がみられました。AH1pdm09型は8株の抗原性解析結果が報告され、すべて**2倍以内（ワクチン株と類似）**でした（1月20日現在）。

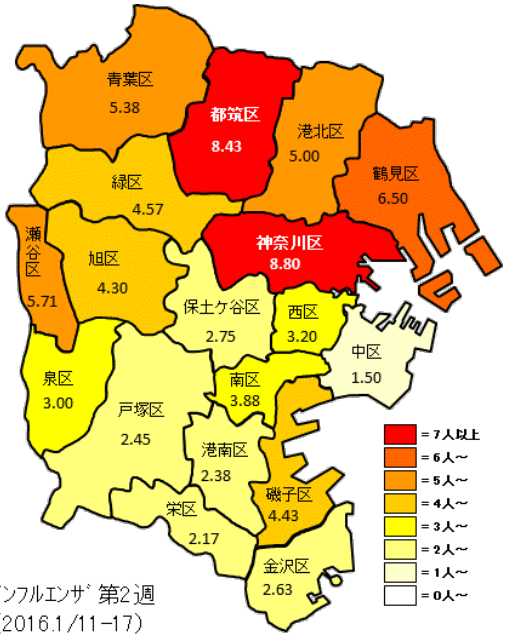
7 地図で表した直近 3 週間の区別流行状況（塗り分けの数字は定点あたり報告数）



インフルエンザ 第53週
(2015.12/28-2016.1/3)



インフルエンザ 第1週
(2016.1/4-10)



インフルエンザ 第2週
(2016.1/11-17)

※参考リンク

近隣自治体の流行状況

- **○神奈川県**
- **○川崎市**
- **○東京都**

全国の流行状況

- **○国立感染症研究所**

【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9237